

## 企業動向調査（本社企業）

平成 13 年 7 月～9 月期現状見通し  
平成 13 年 10 月～12 月期見通し

平成 13 年 9 月 28 日  
経 済 産 業 省  
経済産業政策局調査課

（ポイント）

今期（7～9 月期）の業況は、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。また、「悪化」超幅は拡大しており、悪化の度合いが強まっている。

今期の製品在庫、雇用水準については、製造業、非製造業ともに「過剰」超となった。

来期（10～12 月期）の業況は、製造業、非製造業ともに前期に引き続き「悪化」超となる見通しとなった。

1. 調 査 時 点 ：平成 13 年 8 月中旬  
（毎年 2 月中旬、5 月中旬、8 月中旬、11 月中旬の四半期ごとの調査）
2. 調査対象期間 ：平成 13 年 7～9 月期現状見通し及び 10～12 月期見通し
3. 調 査 対 象 ：我が国企業のうち、平成 13 年 3 月末現在で以下の条件をすべて満たす企業。  
金融・保険業及び不動産業を除く全業種  
資本金 1 億円以上  
従業者 50 人以上  
海外現地法人を保有
4. 調 査 方 法 ：対象となる本社企業に調査書類を配布し、記入・返送していただく書面調査。

今回の調査対象企業数 1736 社 回答率 67.9%

（注）13 年 1～3 月期以前の D I 数値は、参考として過去の産業経済動向調査の結果を表示したもので、企業動向調査の結果とは接続しない。

### 【お問い合わせ先】

調査課（本館 8 階西 6）担当：杉浦、尾形、柿元  
（内線）2521 （直通）03-3501-1625

## 1. 業況（前期比判断：好転 - 悪化）

今期（7～9月期）の業況は、前期（4～6月期）に引き続き、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。また、「悪化」超幅は拡大しており、悪化の度合いが強まっている。

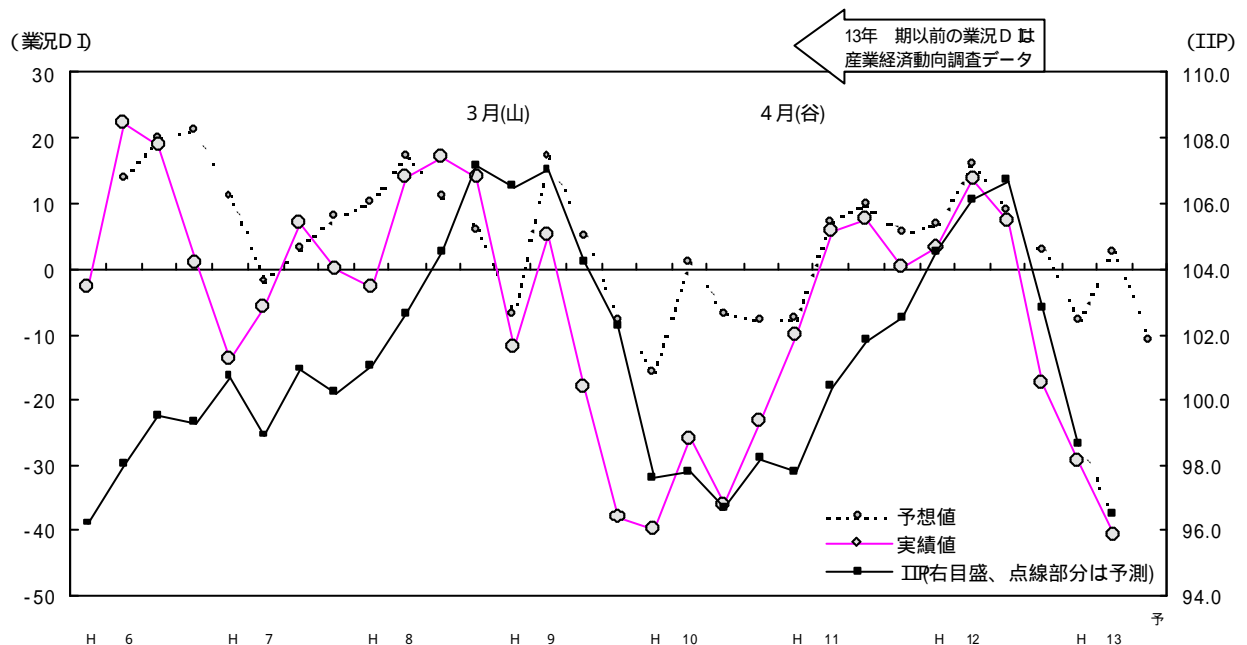
製造業については、化学、鉄鋼、非鉄金属等の素材型業種が一段と悪化している。

来期については、製造業、非製造業ともに「悪化」超が見込まれている。

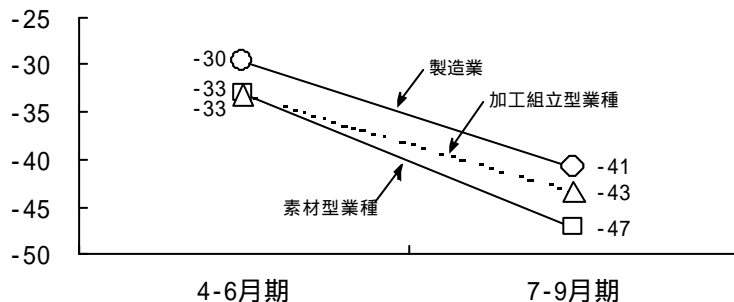
### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
全産業	+ 7	+ 2	1 7	2 8	3 8	1 1
製造業	+ 1 4	+ 7	1 8	3 0	4 1	1 1
非製造業	3	6	1 5	2 4	2 9	1 0

### 【製造業の業況判断DI及びIIPの推移】



### 【製造業における業況の推移】



（注）

加工組立型業種は、一般機械、電気機械、輸送機械及び精密機械。

素材型業種は、繊維、木材・紙・パルプ、化学、窯業・土石、鉄鋼及び非鉄金属。

## 個別主要業種の動向

輸送機械については、今期、自動車の国内販売が新型車の投入効果により底堅い動きとなったものの、輸出の減少傾向が継続していることから、業況は一段と悪化している。

### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
輸送機械	+ 1 7	+ 4	9	2 2	3 0	1 2

電気機械については、前回調査では今期は好転するとの見通しであったが、逆に悪化度合いが強まった。依然DRAMを中心に半導体の市況は悪化している。加えて、国内における消費者向けパソコン販売の減少や携帯電話の需要が伸び悩んでいることなどから、業況は一段と悪化している。

### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
電気機械	+ 4 0	+ 6	2 2	4 2	5 2	1 1

一般機械については、今期、工作機械、半導体製造装置の受注が大幅に減少しているほか、建設機械は内外需ともに低迷していることから、業況は一段と悪化している。

### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
一般機械	+ 3 6	+ 1 2	6	3 9	4 6	1 8

鉄鋼については、今期、低迷が続いている建設需要に加え、製造業向けも減少に転じるなど内需が低迷している。その結果、生産調整の遅れと併せて、特に薄板が顕著に積み上がっており、鋼材の価格も下落傾向であることから、業況は悪化している。

### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
鉄鋼	+ 3 1	+ 1 9	2 9	6 2	6 3	2 2

化学は、今期、石油化学製品の出荷が大幅に減少している。内需が総じて低調、輸出も大幅な減少となっている一方で、原料価格の高止まっていることなどから、業況は一段と悪化している。

### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
化学	0	4	1 6	2 6	4 2	2

木材・紙・パルプについては、今期、紙、板紙の出荷が前年割れで推移している。内需が鈍化傾向で推移し、輸出も減少している結果、紙、板紙の在庫が増加するとともに、段ボール原紙を中心に板紙の価格が大幅に下落していることから、業況は一段と悪化している。

### 【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
木材・紙・パルプ	+ 5 0	+ 2 9	1 4	3 6	4 1	3 5

小売業については、今期は、猛暑効果により百貨店、スーパー、コンビニエンスストア等において夏物商品や飲料を中心に販売が増加したことから、業況は好転して

いる。しかしながら、売上げ単価の減少が継続しており、来期は、業況が悪化する見通しとなっている。

【業況判断】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
小売業	8	10	13	0	9	17

## 2. 売上高（前期比判断：増加 - 減少）

今期の売上高は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「減少」超となった。また、「減少」超幅が拡大しており、売上高の減少感が強まっている。来期については、製造業が「悪化」超、非製造業が「増加」超が見込まれている。

【売上高】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
産業全体	+ 17	+ 2	6	23	25	1
製造業	+ 22	+ 9	8	25	27	2
非製造業	+ 7	11	2	17	19	+ 1

## 3. 企業収益（前期比判断：好転 - 悪化）

今期の企業収益は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「悪化」超となった。また、「悪化」超幅が拡大しており、企業収益の悪化の度合いが強まっている。

来期については、製造業が「悪化」超、非製造業が「好転」と「悪化」が同数見込まれている。

今期における企業収益の悪化の要因としては、製造業、非製造業ともに、売上げ数量の減少、売上げ単価の低下、原材料費の上昇、と回答した企業が多くみられた。

【企業収益】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
産業全体	+ 1	3	9	24	30	3
製造業	+ 8	+ 1	11	28	32	4
非製造業	10	9	6	13	22	0

【企業収益悪化の要因】

	売上数量 の減少	売上単価 の低下	人件費 の上昇	原材料費 の上昇	金利負担 の増加	その他
製造業	71.1%	22.8%	1.2%	2.6%	0.0%	2.3%
非製造業	61.5%	27.9%	1.0%	2.9%	0.0%	6.7%

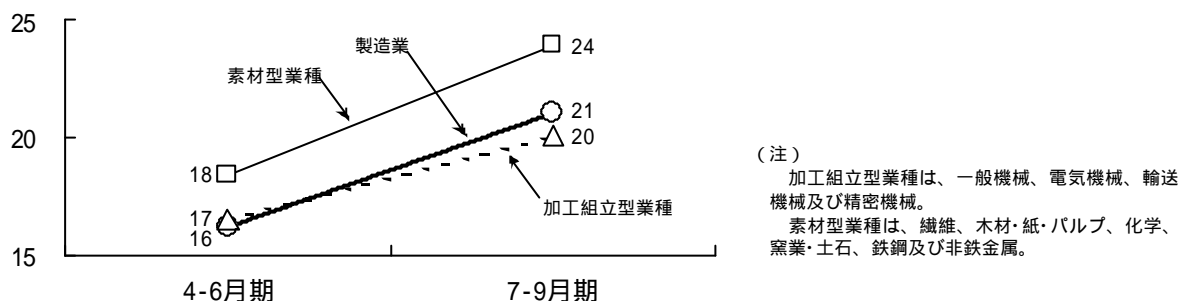
## 4 . 製品在庫（水準：過剰 - 不足）

製品在庫は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「過剰」超となった。製造業では、「過剰」超幅が拡大し、製品在庫に対する過剰感が増している。特に、鉄鋼、木材・紙・パルプ等素材型産業で在庫の過剰感が増している。来期については、製造業、非製造業ともに「過剰」超幅が縮小し、過剰感が緩和すると見込まれる。

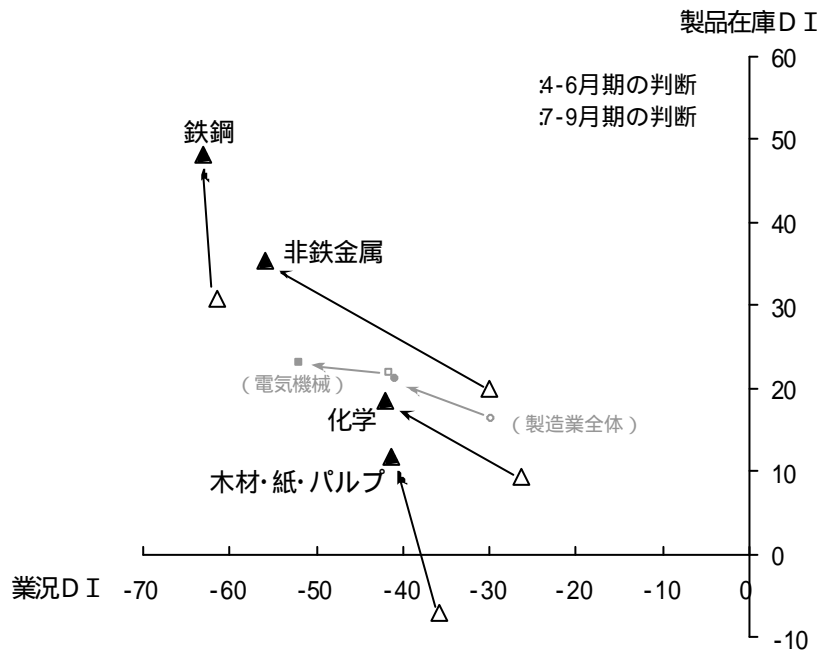
### 【製品在庫】

	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
産業全体	+ 1 5	+ 1 8	+ 2 5	+ 1 5	+ 1 8	+ 7
製造業	+ 1 8	+ 1 8	+ 2 9	+ 1 6	+ 2 1	+ 7
非製造業	+ 1 0	+ 1 6	+ 1 7	+ 1 0	+ 9	+ 4

### 【製造業における製品在庫の推移】



### 【主な素材型産業における業況と製品在庫の判断推移】



## 5 . 雇用状況（水準：過剰 - 不足）

雇用状況は、前期に引き続き、製造業、非製造業ともに「過剰」超となった。製造業では、「過剰」超幅が拡大し、雇用の過剰感が増している。特に、鉄鋼業、木材・紙・パルプ、窯業・土石、電気機械の業種において顕著であった。来期についても、「過剰」超で、雇用の過剰感は続くと見込まれる。

【雇用状況】	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
産業全体	+ 2 3	+ 2 0	+ 1 8	+ 1 8	+ 2 3	+ 2 1
製造業	+ 3 2	+ 3 0	+ 2 8	+ 2 0	+ 2 7	+ 2 5
非製造業	+ 8	+ 5	+ 1	+ 1 4	+ 1 1	+ 1 1

## 6 . 生産設備（水準：過剰 - 不足）

生産設備は、前期に引き続き「過剰」超となった。「過剰」超幅は拡大しており、設備の過剰感が増している。来期についても「過剰」超で、設備の過剰感が続くと見込まれる。

【生産設備】	(12/7-9)	(10-12)	(13/1-3)	前期(4-6)	今期(7-9)	来期(10-12)
製造業	+ 2 0	+ 1 8	+ 2 2	+ 1 7	+ 2 2	+ 1 7